

新型コロナウイルス感染症について分かっていること

子どもの新型コロナウイルス感染症はRSウイルスやインフルエンザなどと比べるとずっと軽い感染症です。症状がないか、あっても軽い場合が殆どです。もちろん数多くの子ども達が感染すると、中には重症化するケースもありますが、それは他のかぜのウイルスでも同じです。

子ども達の間でそんなにこのウイルスは拡がって行きません。もちろんこれだけ社会の中での流行が拡大すれば、家庭の中にウイルスが持ち込まれて子どもにも感染し、その子どもが保育施設や学校に持ち込むこともあるでしょう。それでも、保育施設や学校におけるクラスターの発生は、全体から見るとごく一部に過ぎません。大袈裟に取り上げて、不必要に子ども達の生活に制限を加えることがあってはなりません。そして、大人達の行動半径にある場所（職場、飲食店、通勤電車などなど）と比べれば、小児科診療の現場は新型コロナウイルス感染症のリスクがむしろ低い場所です。未だ小児科クリニックにおけるクラスターの発生は報告されていません。保護者の皆様方におかれましては、新型コロナウイルス感染症を過剰に心配し、子ども達にとって重要な予防接種や乳幼児健診を取り止めてしまったりすることなく、これまで通り必要に応じて小児科を受診なさってください。

（長崎大学小児科 森内浩幸教授の文章を一部改変して掲載しています）